

# 令和5年度 事業計画

## 目 次

---

◆ 建学の精神等教育目的・目標	1
◆ 第1編 法人	2～4
◆ 第2編 専門学校	5～7
◆ 第3編 高等学校	8～12
◆ 第4編 中学校	13～14

## ◆建学の精神等教育目的・目標◆

### 1 建学の精神

- ▶建学の精神は、『教育は愛なり』である。この建学の精神は、「学生生徒一人ひとりをとことん大切にする。」本学院創立者鶴虎太郎の教育実践から生まれた。
- ▶また、この建学の精神は経営の基本理念でもあり、この基本理念に沿って、大学及び短大にあつては「信和・協同・実践」を教育理念として教育目標を設定し、高校にあつては教育方針を設定している。
- ▶教育分野においては、学生生徒の目線に合わせたさまざまな改革・改善を意欲的に取り組んでいる。
- ▶一方、事務分野においても、これを支援して学生生徒の満足度を一層向上していくために経営の基本方針及び具体的方針を設定している。

### 2 教育目標

#### ■専門学校

自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、社会に貢献できる教養豊かで実践力に富む専門的な知識を有する人材を育成する。

#### ■高校

- ①感動と学びのある学校
- ②愛され信頼される学校
- ③良かったと評価される学校

- ▶この3つの教育目標のもとに生徒一人ひとりに「確かな学力」を養い、社会に貢献できる人材の育成に努める。

#### ■中学校

- ①高度な受験力の養成
- ②生きる英語力の育成
- ③豊富な体験学習
- ④広範なプログラミング教育

### 3 学生生徒等の満足度の向上を支援するための方針

#### ■基本方針

- ①学生生徒等顧客を大切に、職場を明るくする。
- ②調和のとれた仕事の流れを作り上げる。
- ③自ら能力開発に努める。

#### ■具体的方針

- ①本学院全体の連携強化と学生生徒等顧客へのサービス向上に心がけるとともに、明るく働きやすい職場の実現に努める。
- ②業務改善の視点を持って自己点検を行い、「最少の経費で最大の効果」が得られるよう、迅速かつ効率的な業務の遂行に努める。
- ③職員一人ひとりがそれぞれの達成すべき目標を定め、常に新しい分野に興味を抱いて、知識の涵養を図るとともに、自己研鑽に努める。

# 第 1 編 法人

## 1 経営改善

実施目標・計画	実施予定年度
経営改善 5 か年計画	
①第 1 期 支出は給与カット、職員採用と物件費予算を抑制していることもあり縮減しているものの、依然として支出超過が続いている。	平 23～27 年度 済
②第 2 期 第 1 期と同様に、給与・賞与カット及び最低限の職員採用による人件費抑制、並びに、物件費予算の抑制を続けてきたが支出超過から脱却できなかったため、平成 31 年 5 月に大学の学生募集停止、短大の専門学校への移行を決定し、経営改善を図ることとした。	平 28～令和元年度 済
③第 3 期 第 2 期と同様に、支出超過となっている学校に所属する職員の給与・賞与をカットし人件費を抑制する。大学の学生募集停止、短大の専門学校への移行により職員の整理計画を遂行し、経営改善を図る。	令 2～4 年度 済
④第 4 期 支出超過となっている学校に所属する職員の給与・賞与カットについては、一旦中止とする。 令 5 年 3 月 31 日大学の在学生の全員が、卒業や進路変更により在籍しなくなった時点で、大学・大学院の廃止認可申請を行う。また、大学関連の遊休資産の整理に注力する。	令 5～6 年度

## 2 管理運営

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 周辺会計の管理・適正化	平 27 年度～ 継続中
(2) 職員交流会の在り方の開催 大学部門の閉校により、従来 of 交流会の方法は中止とし、別の方法で交流を図ることを検討する。	平 28 年度～ 中断

## 3 事業運営

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 財政計画の策定	令 2 年度～
収支の改善：収入源の拡大、支出の削減、予算の重点配分等の検討	令 3 年度～
(2) 重点目標として中学校と専門学校の募集強化	令 2 年度～
(3) 中野キャンパス、上瀬野キャンパスの遊休資産の活用及び処分の検討	令 3 年度～
(4) 学校法人のリスクを回避するために、リスク管理体制の整備を目的に情報収集能力の強化を図る。	令 4 年度～
(5) 大学の廃止が認可された後に、次の行事を開催予定。	令 5 年度～
① 大学終了式典の開催	
② 大学廃止のお礼状の発送（大学・高等学校関係、官公庁、企業関係）ほか	
③ 大学メモリアルルームの設置	
(6) 中野キャンパスのハード面の整理	令 5 年度～
① 校舎内の校具、備品、研究室の整理・処分	
② 学校資産の事務処理（所属の移転、廃棄等）	
③ 未耐震校舎の取り壊し（年度ごとの計画を作成）	

#### 4 教育振興寄附金

実施目標・計画	実施予定年度
○大学、短大、高校の教育研究環境整備の充実を図ることを目的として創設	平23～31年度
○大学募集停止、短大の専門学校移行により終了	令2年3月31日
○広島版「学びの変革」推進寄附金の活用を検討・推進する。	令2年度～
○高校、中学校、専門学校の教育研究環境整備の充実を図ることを目的として募集開始	令2年度～
○経費や工数の少ない方法を検討して実施する。	令5年度～

〔受入状況〕平成31（2019）年度まで

〔受入状況〕令和2年（2020）年度から

指定部門 受入年度	法人		大学		高校		中学		専門		計	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
平23～31	664	5,636,000	907	3,877,736	1,303	11,954,500	0	0	460	2,456,205	3,334	23,924,441
令2年度	6	1,032,000	0	0	0	0	0	0	2	160,557	8	1,192,557
令3年度	4	33,000	2	20,000	1	3,000	0	0	2	230,000	9	286,000
令4年度	5	1,067,778	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1,067,778
計	15	2,132,778	2	20,000	1	3,000	0	0	4	390,557	22	2,546,335
合計	679	7,768,778	909	3,897,736	1,304	11,957,500	0	0	4	390,557	3,356	26,470,776

※令和4年度は、令和5年3月10日現在の数値

※平23～31は短大、以降は専門受入

〔寄附金使用額〕

(単位:円)

指定部門 使用年度	法人	大学	高校	中学校	短大	専門	計
令2年度			4,875,000		1,831,368		6,706,368
令3年度			7,082,500				7,082,500
令4年度							
残高	7,768,778	3,897,736	0	0	624,837	390,557	12,681,908

令和3年度中に本格的な募集を開始することを計画していたが、担当者が不在となったこと、大学譲渡の案件が入り担当部署の繁忙が重なったことにより、作業ができなかった。

令和4年度からは、従来行っていた郵送等による寄附金の募集方法については、年間100万円を超える経費を使い事業化していたが、費用対効果を勘案してこの方法は中止することとした。

今後募集方法を工夫して、経費の掛からない方法で、広島版「学びの変革」推進寄附金の活用を推進する。

※教育振興寄附金の近年の状況を見ると、積極的な寄付を募るためにはやはり父母等、卒業生、企業等に直接届く方法が効果的と思われるが、郵送では経費が掛かりすぎる、工数が大きい（担当が必要）ことなどを考慮して、経費や工数の少ない方法を検討して実施する。

## 第2編 専門学校

### 1 教育課程

#### 1-1 教育課程編成・実施の方針

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 国交省認定科目の効率的な授業計画の立案	継続
(2) 外部講師による実践的な授業を実施 就職講座に企業の実務担当者を招き、社会マナーや面接対応等を指導	〃

#### 1-2 学習成果の査定（アセスメント）

実施目標・計画	実施予定年度
〔授業アンケートの実施〕	
(1) カリキュラムに対応した授業アンケートの作成と試行を検討	令和4年～
(2) アンケート結果は次年度授業改善に反映の予定	〃

### 2 学生支援

#### 2-1 学習支援

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 学習動機づけのための導入教育 キャリア教育（就職講座）：前期は職業理解、後期は就職指導を行い、高い就職内定率を維持	継続
(2) 留年・退学者数の低減活動 ①週ごとの出欠管理を行い、教職員間で学生情報を共有化 ②欠席過多学生の早期発見とチューターによる指導（授業面、生活面） ③授業を通しての学生動向の把握と情報共有化	〃
(3) 自動車整備学科、1級自動車整備学科の授業効率化の推進 国交省認定の時間数内でのカリキュラム編成	〃

#### 2-2 生活支援

実施目標・計画	実施予定年度
〔学生生活の満足度の向上〕	
(1) 学生交流会（入学時歓迎会／水無月祭／クリスマス会）、学内イベントの充実	継続
(2) イベントを通して学生間、学生と教職員間のコミュニケーションを円滑化	〃

#### 2-3 進路支援

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 整備士等各種資格取得の支援 2級・1級整備士等各種資格をカリキュラム編成や指導体制により効率的に取得支援	継続
(2) 企業との懇談会 就職につなげる信頼関係を構築予定	令和5年～
(3) 就職3点セットによる支援（会社訪問、就職講座受講、学内企業研究会参加）	継続

## 2-4 入学者受入れの方針

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 入学者の安定化を図るための調査 整備士の重要性や本校に対する認識等調査事項の検討と調査・分析を実施（内容により外部委託も検討）	継続
(2) ホームページと広報資料の充実（4月～8月を広報強化期間と定める） ① ブログ・SNSのアップ回数強化。資料準備時間低減のため、配布チラシの内製化検討 ② 広報資料（毎年作成）・整備士になるプロジェクト（4月末TV放映）参画で、4月～8月末までネット広告をSNS配信。 ・入試関連イメージビデオ作成し、YouTubeで配信 ③ 本学情報を業者Webページや高校生配付資料へ掲載 ④ 広報効果が期待できる媒体の活用（広島駅地下展示ブースへのパネル展示） ⑤ 「特定整備」が実施できる特定認定工場の活用推進	〃
(3) オープンキャンパスの魅力向上 ① 企業参加のスペシャルオープンキャンパス（SOC）を6月から1回/月で3回実施予定 ② SOCでは、就職先の企業と連携し車両展示、業務内容の説明を依頼 ③ オープンキャンパス（OC）は7月から9回開催予定。10月以降は1回/月で開催。 なお、申し込みに応じて、随時開催 ④ SOC、OCでの掲示パネル（実習風景、卒業生の写真）を作成・紹介 ⑤ 入学者確保のため来場者（希望者）に、事前面談実施呼びかけ。（随時） （事前面談実施で、面接試験は免除。入学試験は書類選考のみ）	〃
(4) 教職員による高校訪問 ① 訪問校、時期、訪問時持参資料等を検討し、訪問計画立案の上、訪問実施（カリキュラム編成上時間の取れる教員に限定） （県内年4回、県外年2回を目安。高校から要請があれば直接訪問し学校説明を実施） ② 整備士希望の生徒に対し、高校へ訪問し個別に直接説明することをHP等で発信 ③ 国（国交省）、企業、整備振興会と連携して高校を訪問し、自動車整備業の重要性や魅力の紹介活動に参加	〃
(5) 高校ガイダンス等 自動車に対する興味や関心喚起のため積極的にガイダンスへ参加し、整備の重要性や本校の魅力を紹介 ・企業と連携して高校を訪問し、実務者から整備業を紹介 ・県内のガイダンスへは可能な限り出席 ・競合校との差別化のため、本校のメリット（充実した施設・設備、安全性）を重点的にアピール ・要請あれば小中学校での職業紹介	〃
(6) 入試関連 日程・種類、選考方法等を検討し、分かりやすい入試方法を検討	〃

## 3 学内環境

実施目標・計画	実施予定年度
〔建物設備の充実、改修、改善〕	
(1) 学内美化 学内整理・整頓の推進（不要機材、車両の廃却）	継続
(2) 学内安全 学内設備の保守点検対応	〃

#### 4 教育資源

実施目標・計画	実施予定年度
〔装置・教材の充実〕 先進技術搭載車の整備（特定整備）ができる特定認定工場の充実と授業への組み入れ 検討	継続

#### 5 キャリア教育の取組み

実施目標・計画	実施予定年度
「就職講座Ⅰ・Ⅱ」により効率良く学生の就職指導を実施	継続

#### 6 地域貢献の取組み

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 地域参加型イベントの実施 地域交流プロジェクト ▶ 学内施設を企業講習会等へ貸与することで、本校の地域貢献と知名度向上推進	継続  令和6年～

#### 7 自己点検評価

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 自己評価、学校関係者評価を実施する。	継続
(2) 実施予定事業（教材購入等）については随時点検し、ムダをなくす観点から見直し を検討	継続

## 第3編 高等学校

### 令和5年度 学校運営重点目標（中学・高校共通）

#### 重点目標

- (1) **組織の一員としての自覚を高める**（校務分掌の遂行力を高める）
- 各分掌（科、課、コース、学年、クラス）が情報を共有し対応をすることで、改革が前進する。
- ▶ 個人あるいは一部の意見がそのまま企画委員会や職員会議に出てきている感がある。（共有されていない）
  - ▶ 各分掌で充分練られた意見を企画委員会や職員会議で提案する流れを作りたい。職員会議以外の各小会議を積極的に行って欲しい。
  - ▶ 現場のことはその分掌の責任者が一番よく知っているわけだから、ある程度その判断にスピード感を持って任せていきたい。やらされている感を与えることなく主体的に責任感を持って動ける環境を作っていきたい。（主体的な生徒を作る教師が主体的に動くことができなければ意味がなし）
  - ▶ 校務分掌遂行の際、各責任者はある程度の権限を持ち、他の分掌との調和を図り実行する。
  - ▶ ただ任せるとは丸投げということではなく双方向的なものであり信頼関係は欠かせない。信頼できるから任せられるのでしっかりと責任者との話し合いはしていきたい。
- (2) **保護者との連携・協力の力を高める**
- さまざまな問題に対応してきて、保護者と教師の関係の大切さを感じた。大学の教職課程の中でもおろそかにされがちで、現場でも一番避けられる関係だが、一番重要な関係である。この関係が信頼によってしっかりと作られていけばあらゆる問題を未然に防ぐことができる。
- ▶ クラス懇談会、個別懇談会、授業参観等を定期的の実施することにより保護者が学校に来校できる機会を増やす。
  - ▶ 学級通信、学年通信、コース通信あるいは学校通信などにより生徒の様子、学校の情報を積極的に保護者に伝える。
- (3) **サービスの遵守と個人情報の保護・管理の徹底**
- サービス事故を起こすことは、それまでに築き上げてきた教育実践や学校への信頼を、一気に喪失させてしまう。
- ▶ 教職員の3大サービス事故（体罰、ワイセツ、交通事故）の未然防止  
生徒への言葉の体罰もこれに含まれることを忘れてはならない。これは教職員から生徒への行為だけでなく教職員間にも同様に値する。
  - ▶ 個人情報及び学内情報の漏洩の防止  
学校は個人情報の宝庫と言われる。個人情報の保護・管理を「危機管理」に位置付けて厳しい姿勢で臨まなければならない。校内における「個人情報保護管理体制」を確立する必要がある。
  - ▶ 情報の漏洩は文書だけでなく口頭でもあり得る。教職員同士の職員室等の校内の会話ひとつにしてもその可能性は十分あり得る。



## 1 授業運営

### 1-1 組織改編とコース設定

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 1年次には、「一貫コース」「難関コース」「特進コース」「選抜進学コース」「総合進学コース」の5コースを設定し、「難関・特進・選抜・総合」コースにおいては2年次、実力及び進路目標に応じて、コースの入れ替えを実施する。	令4年度～
(2) 総合進学コースにおいては、2年次より、総合進学Ⅰ類（文系）Ⅱ類（文理系）に分類し、生徒の多様な進路希望にあったクラス編成を行う。	令5年度～
(3) 各コースの特徴を再確認し、今後の指導や広報に活かす。	令4年度～
(4) 毎週水曜日を7限授業から6限授業とし、職員会議・学年会議・コース会議・教科会議等各種会議の充実を図る。	令5年度～

### 1-2 アンケート調査の活用

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 保護者及び教員対象アンケートの実施 ① 学校評価の一環として、直接保護者へのアンケートを行い、学校改善を図る。 ② 同様のアンケート調査を教員に実施し、保護者アンケート結果と照合することにより、今後取り組むべき課題や問題点を明らかにする。 ③ 研修会等を通じてアンケート結果並びに問題点は全教職員により共有	平26年度～
(2) 生徒による学校・学級生活満足度アンケート及び授業アンケートの実施 ① 前記(1)のアンケート結果と合わせて、本高校教員の生徒理解・把握力の向上による学級経営力の向上及び生徒の学力向上を図る。 ② 授業アンケートを実施し、授業技術の向上に努める。	平23年度～
1学期末	1・2学年対象に調査を実施
2学期末	1学年には2度目の調査を行いクラス編成の参考資料とする。 全学年に授業アンケートを実施

## 2 生徒指導

### 2-1 いじめに関する調査

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 本校では、いじめ・体罰・ハラスメントの撲滅を目指し、教職員、生徒、保護者と共にこれらを未然に防止するため、啓発活動やアンケート調査を実施する。	平25年度～
(2) アンケート調査は、各学期に実施し、それに伴う指導を行った後、必要な情報は生徒及び保護者に通知する。	〃
(3) 全教職員による研修で情報を共有し、より良い学習環境及び学校生活環境作りを目指す。	〃

### 2-2 携帯電話に関する調査

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 携帯電話に関するアンケート調査を1年に1回実施する。	平25年度～
(2) 全教職員による研修で情報を共有し、より良い学習環境を目指す。 ① 本校では生徒の安全・いじめ防止及び学力向上の観点から携帯電話の校内持ち込みを原則禁止としている。 ② 申請した生徒については、持ち込みを許可する。	〃 令2年度～

### 2-3 自転車通学・登校時における安全教育

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 自転車登録を済ませ所定の場所に停める。無施錠自転車においては該当の生徒に注意喚起・指導を行う。自転車のマナーについては必要な生徒には注意喚起・指導を行う。	平25年度～
(2) 登校・下校時には学校周辺に教員が注意の必要な場所に立ち交通・マナー指導を行う。	平28年度～
(3) 登校・下校時には、指導員を配置し安全目的の指導を行う。	令2年度～
(4) 令和4年7月1日から自転車損害賠償保険等（以下自転車保険）への加入が義務となり、加入確認後自転車通学を許可する。	令5年度～

## 3 情操教育指導

実施目標・計画	実施予定年度
(1) クリーンキャンペーン ① 毎週1学級全員による地域清掃活動（グリーンキャンペーン）を1年間通して実施する。 ② 月1回の生徒保健委員会による地域清掃活動を実施する。	平19年度～
(2) グリーンキャンペーン ① 各クラスによる植栽プランターの設置（グリーンキャンペーン）を実施する。 ② 平成31年度からは対象範囲を校外へ広げて活動する予定する。	平22年度～

## 4 国際教育交流の充実

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 海外とのオンライン交流会 オーストラリアの高校とオンラインで交流。お互いの国や文化、学校生活などについてのプレゼンをし意見交換。手紙やチャットでのやり取りを実施。	令2年度～
(2) オンライン英会話 パソコンを使用し、1対1でオンライン英会話の練習をする。生徒は、英検、GTEC、日常会話などから選択することができる。	平29年度～
(3) 国際交流委員会 国際交流委員を1, 2学年の各クラスから2名選出し、生徒の国際交流員会を構成。学校行事にあわせて活動する。	平25年度～
(4) 外国籍の生徒に対する日本語教育 毎週2時間、日本語の先生に来ていただき、日本語教育を行う。授業理解の手助けや日本語能力検定を取得するための学習を行う。	令2年度～

## 5 特別教育・教務システム

### 5-1 新入生特別活動の実施

実施目標・計画	実施予定年度
〔新入生集団宿泊（江田島青少年交流の家）研修を実施〕 新入生には本校生徒としての心構えを認識・確認させるとともに、カッター訓練等の経験を通して集団の中の個の役割や対人関係能力の育成を図る。	継続

### 5-2 進路研修・勉強合宿

-実施目標・計画	実施予定年度
〔一貫・難関・特進コース対象進路研修および勉強合宿〕 関東・関西進路研修による、大学見学や企業見学を通して見識を深め、将来の進路選択の一助にするとともに、相互の友情や親睦をさらに深める。	継続

### 5-3 学校運営システムの運用

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 学校運営システム より一層の有用活用を目指して改良を加えながら運用する。	平18年度～
(2) 入試管理システム 平成25年度より構築してきた入試管理システムを教務システム（学籍管理、出欠管理、成績管理等）と連動させ、より一層、事務処理機能の効率化を図る。	平25年度～

## 6 生徒募集活動

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 令和4年度に実施した次の募集活動について、引き続き取り組む。 ① 配付用パンフレット・チラシ・ポスター等作成 ▶国際交流課と連携し、本校及び系列中学の行事等を日本語と英語で説明したカレンダーを作成する。 ② 中学校訪問（4～6回） ▶第1回と第2回は8月以降行われる入試イベントの参加者数を増やすための訪問。第3回以降は、入学試験における注意事項の連絡や、円滑に出願まで案内できるよう、密に連携をとる。 ③ 各中学校入試説明会（15回程度） ▶本校のPRを直接できる貴重な機会であるため、1校でも多く参加できるよう募集担当者を中心に参加意志を表明する。 ④ 呉地区中学校合同説明会 ⑤ 東広島地区合同説明会 ⑥ 各塾での出前公開授業・説明会 ▶本校のPRを直接できる貴重な機会であるため、なるべく多く参加できるよう各塾等に働きかける。 ⑦ 小学生・中学生保護者対象入試説明会 ▶保護者に対して早い段階からPRを行う。 ⑧ 私塾対象入試説明会 ▶高校専願基準点など詳細情報を広く確実に行う。 ⑨ オープンスクール：中学生・小学生対象 ▶本校を受験したい、受験させたいと中学生や保護者に思ってもらえるように、学校の雰囲気や伝わるオープンスクールを開催する。 ⑩ 私学フェスタ ⑪ 「国際模試」実施 ▶オープンスクールには参加しない層の中学生に対し興味関心をもってもらおう。 ⑫ 保護者対象学校見学会 ▶保護者に対して直接PRを行う。 ⑬ 保護者対象イブニング説明会 ▶保護者に対して直接PRを行う。 ⑭ 入試説明会&難関コース体験授業（令和2年度～） ▶受験校最終決定の時期に説明会を行うことによって、1人でも多くの受験者を獲得する。	平25年度～
(2) 地道なPR活動を通して入学者増に繋げる。	〃

## 7 学校評価

実施目標・計画	実施予定年度
〔学校評価（主に自己評価・学校関係評価）の実施〕 年度の各学期末に実施し、教育活動や組織運営の反省と課題を明確にしより円滑で発展性のある学校づくりに努める。	継続

## 8 地域貢献

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 海田町の小学校や自治会への会場の提供 小学生低学年が芝生を利用したのボール遊び、自治会の集会や講演会の会場として提供する。	平31年度～
(2) 災害時の指定緊急避難場所 海田町の指定緊急避難場所として指定	平27年度～

## 9 施設設備の充実

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 楽器のリニューアル 式典やオープンスクール等の行事で使用している楽器が老朽化し故障等が多くなっているため、全ての楽器を令和3～5年度にかけてリニューアル（購入）する。	令和3年度～

## 第 4 編 中学校

### 1 授業運営

#### 1-1 中高一貫のカリキュラムの実施

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 先取り教育の実践 ① 豊富な授業時間数のもと、中 2 までに中学課程を修了する。また高 2 の終わりまでに高校過程を終了、最後の 1 年間を大学受験に特化した学習を行う。 ② 特に英語、数学の授業時間は多めに設定している中、英検対策など付加価値を高める内容を行っており、語学教育・理数教育について高い力を育む。 ③ 英語検定を全員受験しており、中 1 では 5～4 級、中 2 では 4～3 級、中 3 の卒業時には準 2 級（高 1～2 レベル）を目標としている。	平 31 年度～

#### 1-2 アンケート調査の活用

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 保護者及び教員対象アンケートの実施 ① 学校評価の一環として、直接保護者へアンケートを行い、学校運営の改善を図る。 ② 同様のアンケート調査を教員に実施し、保護者アンケート結果と照合することにより、今後取り組むべき課題や問題点を明らかにする。 ③ アンケートの結果は問題点と合わせて研修会等を通して全教職員に周知させ共有化を図る。	平 31 年度～
(2) 生徒による学校・学級生活満足度アンケート及び授業アンケートの実施 ① 前記(1)のアンケート結果と合わせて、本高校教員の生徒理解・把握力の向上による学級経営力の向上及び生徒の学力向上を図る。 ② 授業アンケートを実施し、授業技術の向上に努める。 1・2 学期末に全学年を対象に調査を実施	平 31 年度～

### 2 生徒指導

#### 2-1 いじめに関する調査

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 本校では、いじめ・体罰・ハラスメントの撲滅を目指し、教職員、生徒、保護者とともにこれらを未然に防止するため、啓発活動やアンケート調査を実施	平 31 年度～
(2) アンケート調査は各学期に実施し、調査結果を生徒及び保護者へ通知	"
(3) 全教職員による研修で情報を共有し、より良い学習環境及び学校生活環境作りを目指す。	"

#### 2-2 携帯電話に関する調査

実施目標・計画	実施予定年度
(1) 携帯電話等に関するアンケート調査を 1 年に 1 回実施	平 31 年度～
(2) 調査結果は生徒及び保護者へ報告	"
(3) 全教職員による研修で情報を共有し、より良い学習環境作りを目指す。	"

### 3 特別教育（百錬錬磨）

実施目標・計画	実施予定年度
<p>〔本校の特色である実学教育の実施〕</p> <p>次の5テーマを土曜日に行い、それぞれの体験を通して協働する力、コミュニケーション能力、思考力、発信力を身に付けるとともに、研究的視点、経営的視点をもって問題をとらえる力を育成する。</p> <p>① アカデミック体験 ② 日本文化体験 ③ グローバル体験 ④ アウトドア体験 ⑤ ボランティア体験</p> <p>＜主な実施内容＞</p> <p>探究学習・発表、農業、平和学習、ビブリオバトル、プログラミング、茶道・華道、書写、座禅、空手、サマーキャンプ、ウィンターキャンプ、研修旅行、水泳実習、ドローイング、みやじまフィールドワーク、ASAZOO フィールドワーク、瀬野川クリーン大作戦、海田町マップ作り、織田幹雄スクエア見学</p>	平31年度～

### 4 生徒募集

実施目標・計画	実施予定年度
<p>(1) 令和4年度に実施した次の募集活動について、引き続き取組む。</p> <p>① 配付用パンフレット・チラシ・ポスター等作成 ▶本校・系列高校の行事等を説明したカレンダーを作成</p> <p>② 塾・小学校訪問</p> <p>③ 塾説明会 ▶本校のPRを直接できる貴重な機会であるため、なるべく多く参加できるよう各塾等に働きかける。</p> <p>④ 小学生・保護者対象入試説明会 ▶受験校最終決定の時期に説明会を行うことによって、1人でも多くの受験者を獲得する。</p> <p>⑤ 私塾対象入試説明会 ▶各塾などでの説明会で本校の教育や学力層などを理解してもらい、塾の先生や保護者・生徒本人の本校への受験意識を持ってもらう。</p> <p>⑥ OPENDAY（4回） ▶本校を受験したい、受験させたいと小学生や保護者に思ってもらえるように、学校の雰囲気や伝わるイベントを開催する。</p> <p>⑦ 小学生国際模試〔本校主催〕 ▶オープンデイには参加していない層の小学生に対し興味関心を持ってもらう。（令和2年度～）</p> <p>⑧ 私学フェスタ</p> <p>⑨ 保護者対象学校見学会 ▶保護者に対して直接PRを行う。</p> <p>⑩ 中学受験サロン</p>	平30年度～
<p>(2) 地道なPR活動を通して入学者増に繋げる。</p>	//

### 5 学校評価

実施目標・計画	実施予定年度
<p>〔学校評価（主に自己評価・学校関係評価）の実施〕</p> <p>毎学期に授業参観・保護者懇談会を行い、保護者との連携し、コミュニケーションの充実を図る。また年度末に評価資料を作成し自己評価を行う。</p>	平31年度～